2013栃木フットボールカンファレンス資料（４種関連）

平成25年2月2日

栃木県少年サッカー連盟技術委員会

１　関東トレセンマッチデーふり返り

１）関東トレセンマッチデーレギュレーション

・参加都道府県→東京，神奈川，埼玉，千葉，茨城，群馬，山梨，栃木（１都７県）

・参加人数→各チーム24名（8人制×３ピリオド）

・試合時間→15分×３ピリオド＝45分

・審判一人制

２）今年度の結果→別紙参照

３）リーグ戦を通して

今年度の結果は８チーム中５位という結果であったが，試合内容を見ると各県に比べて改善しなければならない点が数多くあった。

①シュートの精度・・・他県の選手のシュートはきちんと枠をとらえていたが，研ぎ技研の選手のシュートはゴールキーパーと１対１になったときでもゴールマウスを外すことが多かった。また，浮き球をボレーしたシュートも精度に差が見られた。ゴールキーパーの動きや位置をしっかりと見てシュートするということができていない。また，シュート（キック）の技術そのものにも差を感じた。

②ゴールキーパーの関わり・・・各都県ともゴールキーパーが攻撃の起点となっている。８人制のサッカーにいてはゴールキーパーからのフィードやキックがシュートに直接結びつく場面も多い。また，ビルドアップの要としてフィールドプレーヤーとしての役割も大きくなってきている。

③判断（観る・観ておく）・・・中盤の組み立てでボールを奪われる場面が多かった。パスの受け手と出し手のイメージの共有が図られていない。また，やろうとしたプレーが直前で相手の変化によってできなくなったときでも，判断を変えることができない。まわりをよく見て情報収集をしておくことができていない。

逆に，栃木の選手のストロングポイントは守備における粘り強さ（ハードワーク）があげられる。今年度の県トレセンでは守備に力を入れて指導し，ファーストディフェンダーが積極的にプレッシャーをかけてコースを限定し，攻撃方向を限定させてボールを奪うことを目標とした。まだまだ組織的な守備には至らないが，連携してボールを奪う大切さは理解できてきたと感じる。

素直である→言われたことはできるが，自分で考えることは・・・。

２　関東選抜大会について

１）期日→24年12月1日（土）～2日（日）

２）会場→茨城県ひたちなか市総合運動公園

３）参加選手→栃木県トレセンU-12から選考された22名

４）試合レギュレーション

・11人制×２（前後半で必ず選手を入れ替える）

・試合時間20分ハーフ

・ピッチサイズ90m×60メートル（3種への移行を考慮）

５）参加都道府県→東北全県＋関東全県＋北信越＝２４チーム

６）試合結果→別紙参照

７）大会をふり返って

今年度の結果は３位となり，10年ぶりに準決勝に進出した。試合に向けて強化練習会を設け，守備の戦術を徹底した。2日目の埼玉戦では前半の数少ないチャンスをものにし，後半の反撃を集中してしのぎ準決勝進出へのポイントとなった。リードしているにもかかわらずデフェンスから縦にボールを蹴って失う場面も見られたのでもっとしっかりとゲームの状況を判断し，ゲームを進められるようにしたかった。

準決勝で対戦した茨城県はスピード，テクニック，判断ともに栃木県より高いレベルであった。県内ではできていると思っていても，他県の選手と比較するとまだまだ基礎的な技術に開きがあることが再認識できた。技術に終わりはない・・・。

３　ナショナルトレセンU-12関東（＆指導者講習会）

１）期日→平成24年12月21日（金）～24日（月）

２）会場→鹿島ハイツスポーツプラザ

３）参加選手→栃木県から4名（参加都県で最少）

４）今年度のテーマ→『サッカーをしよう！』（別紙参照）

・育成年代だから身につけられる

・11人全員がグッドフットボーラー

・日本のストロングポイントで闘う（Japan’s　Wayの構築）

・攻守にアグレッシブに関わる

・ボックス付近で攻守の質を上げる

・「～or～」（または）ではなく，「～and～」（～も～も）

・～しながら～できる選手の育成